

トップメッセージ



取締役社長

大場康弘



お客さまに、今までにない新たな価値をお届けするために

2018年6月に発生しました大阪府北部を震源とする地震および、7月に発生しました西日本を中心とする大雨により被災されました皆さまに対し、心からお見舞い申し上げます。1日も早く復興されるよう、お祈り申し上げます。

平素より、損保ジャパン日本興亜ひまわり生命保険をお引き立て賜り、厚く御礼申し上げます。

S O M P Oホールディングスグループの中の中核生命保険会社である当社は、従来の保険に加え、今までにない新たな価値を提供することで、保険のその先、お客さまが健康になることを応援する「健康応援企業」への変革を進めています。

従来にない新たな価値Insurhealth(インシュアヘルス)をお届けする「健康応援企業」への変革(トランスフォーメーション)

当社は、商品・サービスを通じてお客さまが健康になることを応援する健康応援企業として、保険本来の機能(Insurance)に、健康を応援する機能(Healthcare)を組み合わせた、従来にない新たな価値「保険+健康(Insurhealth:インシュアヘルス)」を提供してまいります。

2018年4月に、Insurhealthの第一弾として収入保障保険「リンククロス じぶんと家族のお守り」を発売しました。これは、お客さまの万が一の際の保障に加え、お客さまが健康になると保険料が安くなる、健康を応援する機能(「健康☆チャレンジ!」制度)を組み込んだ業界初の商品です。当社は今後もInsurhealthの第二弾、第三弾を投入し、ご契約後もお客さまと直接つながり続け、お客さまが健康になることを応援する「健康応援企業」へ変革(トランスフォーメーション)していきます。

2017年度を振り返って

当社は中期経営計画(2016年度~2020年度)では、今までにない新たな価値を提供し、お客さまから選ばれ続ける保険会社を目指しています。中期経営計画2年目となる2017年度は、公的介護保険制度の要介護1以上と認定されたお客さまが介護一時金を受け取れる「介護一時金特約」、入院時に一時金を受け取れる「医療用入院一時金特約」および退院後の通院を保障する「医療用通院特約」の販売を開始しました。また、当社は、介護分野に強みを持つS O M P Oホールディングスグループと連携することで、より多くのお客さまのご要望に応じてまいります。

お客さま本位の業務運営方針

S O M P Oホールディングスグループは経営理念に「お客さまの視点ですべての価値判断を行い、保険を基盤としてさらに幅広い事業活動を通じ、お客さまの安心・安全・健康に資する最高品質のサービスをご提供し、社会に貢献」することを掲げています。

2017年に金融庁から「顧客本位の業務運営に関する原則」が公表されたことをふまえ、当社では「お客さま本位の業務運営方針」を策定し、公表しました。2017年度は本方針に基づき、当社の業務内容や課題を見直しました。引続きお客さまに選ばれ続ける保険会社を目指し、具体的に取り組んでまいります。

皆さまには、引き続き変わらぬご支援を賜りますよう、何とぞよろしくお願い申し上げます。

2018年7月

損保ジャパン日本興亜ひまわり生命の沿革

| 1980 | 損保ジャパンひまわり生命 | 日本興亜生命 |
|---|--|---|
| <p>1981年(昭和56年)7月 「アイ・エヌ・エイ生命」設立</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 1981年(昭和56年)7月 Life Insurance Company of North Americaの100%出資で「アイ・エヌ・エイ生命保険株式会社」設立 ● 1982年(昭和57年)4月 営業開始 ● 1983年(昭和58年)4月 安田火災海上保険株式会社と業務提携 | |
| <p>1990</p> <p>1996年(平成8年)8月 「日本火災パートナー生命」設立</p> <p>1997年(平成9年)1月 「アイ・エヌ・エイひまわり生命」に改称</p> <p>2001年(平成13年)1月 「安田火災ひまわり生命」に改称</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 1996年(平成8年)10月 安田火災への業務の代理・事務の代行委託開始 ● 1997年(平成9年)1月 社名を「アイ・エヌ・エイひまわり生命保険株式会社」に変更 | <ul style="list-style-type: none"> ● 1996年(平成8年)8月 日本火災海上保険株式会社の100%出資で「日本火災パートナー生命保険株式会社」設立 ● 1996年(平成8年)10月 興亜火災海上保険株式会社の100%出資で「興亜火災まごころ生命保険株式会社」設立 ● 1996年(平成8年)10月 営業開始 |
| <p>2000</p> <p>2001年(平成13年)8月 「興亜火災まごころ生命」設立</p> <p>2001年(平成13年)4月 合併 「日本興亜生命」誕生</p> <p>2002年(平成14年)7月 「損保ジャパンひまわり生命」に改称</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 2001年(平成13年)1月 安田火災が株式を過半数取得 社名を「安田火災ひまわり生命保険株式会社」に変更 ● 2001年(平成13年)12月 安田火災が株式を100%取得 ● 2002年(平成14年)7月 株式会社損害保険ジャパンの発足に伴い社名を「損保ジャパンひまわり生命保険株式会社」に変更 | <ul style="list-style-type: none"> ● 2001年(平成13年)4月 日本火災と興亜火災の合併に伴い、日本火災パートナー生命と興亜火災まごころ生命も同時に合併し、「日本興亜生命保険株式会社」が誕生 |
| <p>2010</p> <p>2011年(平成23年)10月 合併 「NKSJひまわり生命」誕生</p> <p>損保ジャパン日本興亜ひまわり生命</p> <p>2014年(平成26年)9月 「損保ジャパン日本興亜ひまわり生命」に改称</p> | <p style="text-align: center;">損保ジャパン日本興亜ひまわり生命</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2010年(平成22年)4月 株式会社損害保険ジャパンと日本興亜損害保険株式会社の経営統合によるNKSJホールディングス株式会社の設立とともに、NKSJグループの傘下に入る ● 2011年(平成23年)10月 損保ジャパンひまわり生命と日本興亜生命が合併し、「NKSJひまわり生命保険株式会社」が誕生 ● 2014年(平成26年)9月 NKSJグループが、グループ名を「損保ジャパン日本興亜グループ」に変更することに伴い、社名を「損保ジャパン日本興亜ひまわり生命保険株式会社」に変更 | |

業界初!健康を応援する収入保障保険 「リンククロス じぶんと家族のお守り」発売!

2018年4月、主力商品である収入保障保険「家族のお守り」をバージョンアップし、「リンククロス じぶんと家族のお守り」を発売しました。

発売から1か月で申込件数1万件を突破し、お客さまからも大変ご好評いただいております。

本商品の特徴として、「健康☆チャレンジ!」制度により、加入時から一定期間内に健康状態(禁煙、BMI、血圧)が改善されると、以降の保険料が安くなるとともに、加入時からの保険料差額相当額を健康チャレンジ祝金としてお受け取りいただくことができます。

また、もしものことがあった場合のみならず、お客さまの「働けなくなった際の生活を守りたい」という思いをかなえるため、就労不能時等の保障として付加できるオプションを充実させています。生きるための保障として障害等級1級または2級と認定され、障害基礎年金の受給権が生じた場合などに、年金をお受け取りいただける「就労不能保障特約」や、七大疾病に加え、社会問題化している「メンタル疾患」により所定の事由に該当した場合に、年金をお受け取りいただける「メンタル疾患保障付七大疾病保障特約」などを創設しました。

このように保険本来の機能(Insurance)と健康を応援する機能(Healthcare)を組み合わせ、従来にない新たな価値「Insurhealth(インシュアヘルス)」を提供します。



コールセンターの手話・筆談サービス導入

株式会社プラスヴォイス(代表取締役:三浦 宏之、以下「プラスヴォイス社」と)と業務提携し、2018年3月1日より、耳や言葉の不自由なお客さま向けの手話・筆談による電話受付サービスを開始しました。

本サービスは、手話通訳コールセンターを運営しているプラスヴォイス社を介し、ビデオ通話(LINE、FaceTime、Skype)を通じて保険加入のご相談や、既契約に関するお客さまからの各種お手続き・お問い合わせを手話や筆談で受け付け、その内容をプラスヴォイス社のオペレーターが当社のコールセンターへ音声電話によりリアルタイムに通訳します。

今後も、お客さま対応の品質向上を図ることで、当社のご契約者のみならず、広く一般消費者の皆さまが安心して暮らせる社会の実現に貢献していきます。



女性社員の声から誕生した新サービス 「リンククロス ピンク」

2018年3月より、乳がんの早期発見から罹患後までトータルサポートを行う女性に特化した新サービス「リンククロス ピンク」の提供を開始しました。

当社が2017年10月に男女計1,000名を対象に実施した「乳がんに関するアンケート」では、「自分自身が乳がんにかかってしまうかもしれないという不安を抱える」および「配偶者が乳がんにかかってしまうかもしれない不安を抱える」という回答が全体の7割を超えていました。こうした現状を背景に、がんのなかで日本人女性がかかるとも罹患しやすい*とされる乳がんに関する正しい知識を身につけ、女性が前向

きに人生を歩む応援をしたいという思いから、当社女性社員を中心にサービスの検討を進めてまいりました。

本サービスでは、保険会社として“いざという時”の経済的保障に加え、乳がん早期発見のための必要なケア(セルフチェック)を行う新しいライフスタイルを提唱していくとともに、早期発見から罹患後のサポートまでトータルで行ってまいります。

※出典:国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」『地域がん登録全国推計によるがん罹患データ(2013年)』

Linkx pink
リンククロス



リンククロス ピンクのターゲットである女性に向けて、乳がんの早期発見のために、まずは自分の胸と向き合ってもらうことを目的としたPR動画を公開しています。<https://linkx.life/pink/>

「リンククロス コインズ」の販売件数が15,000件を突破!医療機関や普及団体へ寄付金を贈呈

2016年9月に発売した、月々500円の保険料で加入できるネット専用商品「リンククロス コインズ(正式名称:臓器移植医療給付金付先進医療保険)」は、昨年末販売件数が15,000件を突破しました。これに伴い当社は、公益社団法人日本臓器移植ネットワークおよび一般社団法人メディポリス医学研究所に計600万円の寄付を行いました。CSRの取組みとして、高額な費用がかかる医療技術を誰もが受けることのできる社会を目指し、契約件数に応じて、先進医療や臓器移植に関連する医療機関や普及団体への寄付を行ってまいります。

昨年度に引き続き「健康経営優良法人2018 大規模法人部門(ホワイト500)」に認定

当社では「健康応援企業」への変革を実現するために、社員とその家族の自発的な健康維持、増進が不可欠と考えています。この考えに基づき、「健康経営」「働き方改革」への取組みを進めています。

<取組みの例>

| | |
|----------------|--|
| ウェアラブル端末の活用 | 心拍数の計測が可能なフィットビット社製ウェアラブル端末を社員に配布し、社員の健康増進を後押しします。 |
| 全社終日禁煙化 | 全国129か所の営業拠点を含む全社の占有スペースを終日禁煙にしました。医療機関に通院し、禁煙治療を行った社員を対象に、健康保険組合から補助金を支給します。 |
| プレミアムフライデーズの導入 | 社員は自身や業務の都合に合わせて、月に1度、交代で金曜日を15時退社とします。 |
| 労働時間削減 | 19時以降の在社を原則禁止します。 |
| クアオルトの利活用 | 全社員がクアオルト(ドイツ語で療養地の意味)を体験します。また、通常の保健指導では改善が見られない社員を対象に、クアオルト特定保健指導プログラムを実施し、健康への意識・行動変容を促します。 |

これらの取組みが評価され、昨年に引き続き、経済産業省および日本健康会議の運営する「健康経営優良法人2018 大規模法人部門(ホワイト500)」に認定されました。

※健康経営優良法人認定制度とは、地域の健康課題に即した取組みや日本健康会議が進める健康増進の取組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を顕彰する制度です。

